

アブラナ類(ノラボウナ、カキナ、ナバナ等) (露地) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であるが、窒素をはじめとした養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壌の残存養分は比較的強く制御できる。リン酸は、初期と花蕾の発育期に特に必要となる。また、各種養分供給という面から10a当り2t程度の堆肥の施用は不可欠といえる。

〔病害虫・雑草防除〕

アブラナ科野菜の連作を回避する。育苗期には害虫の侵入を防ぐため防虫ネットによるべたがけなどの被覆で物理的遮断を行う。早期防除を図り、化学農薬の使用を削減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</li> <li>○肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</li> <li>○緑肥作物を利用する。</li> </ul>	堆肥(年間) 2~3t/10a
化学肥料 低減技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基肥は、畝内のみの局所施肥とする。</li> <li>○有機質肥料による施肥を行う。</li> <li>○肥効調節型肥料を利用する。</li> </ul>	成分量で慣行施肥 量の20%以下  有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20~50%
化学農薬 低減技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防虫ネットによる被覆を行う。 (対象:コナガ、アブラムシ類など)</li> <li>○BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象:コナガ、ヨトウムシ類など)</li> <li>○性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象:コナガ、ハスモンヨトウなど)</li> <li>○光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、雑草など)</li> </ul>	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○堆肥中の成分含量を考慮して基肥量を加減する。</li> <li>○水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細やかな施肥法をとる必要がある。</li> <li>○盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。</li> </ul>	